

平成31年度「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開内容

	公開期間	公開内容	公開作品
第1期	4月18日(木)～ 6月16日(日) [60日間]	梅と牡丹の障壁画 ～ 廊下を彩る花たち ～ 修理が完了した〈黒書院〉東廊下の障壁画を公開します。ここでは、「牡丹の間」とも呼ばれるように、西側と北側には、牡丹が描かれています。東側には、紅梅と白梅が描かれています。これらの障壁画は、もともと、二の丸御殿の別の場所に描かれ、後世、ここに移されました。これらの《梅図》は、当館では、初公開となります。初春に咲く梅は凛として力強く、晩春に咲く牡丹は豪華な雰囲気なたたえ、いずれも生命感に満ちています。晴れやかに咲き誇る花々を、御観覧ください。	〈黒書院〉牡丹の間障壁画 《牡丹図》《梅図》
第2期	7月11日(木)～ 9月8日(日) [60日間]	松鷹 ～ 桃山の遺風 ～ 〈大広間〉四の間障壁画《松鷹図》は二条城二の丸御殿を代表する障壁画です。今回は、9年ぶりに、四の間の西、南、東面の障壁画を、御殿での配置を再現して公開します。四の間の松は、〈大広間〉の他の部屋の松に比べて、壁面を埋め尽くすかの勢いで生い茂っており、一羽の鷹と二羽の鷹は、現実の鳥よりも大きく描かれています。このような描き方は、天下人たちに重用された狩野永徳が創始した桃山時代の様式を受け継ぐものです。英雄たちの時代の息吹を伝える《松鷹図》の迫力を、ぜひ間近で体感してください。	〈大広間〉四の間障壁画 《松鷹図》
第3期	10月3日(木)～ 12月1日(日) [60日間]	御所からきた名所絵 ～ 帳台の間の障壁画 ～ 二の丸御殿では通常非公開の〈大広間〉と〈黒書院〉の帳台の間の障壁画を公開します。その大半は、正徳5年(1715)に御所の女御御殿に描かれた名所絵が、明治時代に離宮となった二条城で一部再利用されたものです。元の形状から大きく変えられてはいるものの、当初の色彩や描線がよく残っており、当時の京都の狩野派の様式が知られる貴重な作品です。富士山を望む三保松原、住吉、和歌浦などの名所と、桜や紅葉に彩られた名所を巡る人々の姿に加え、近隣の庶民の暮らしが生き生きと描き出されています。	〈大広間〉帳台の間障壁画 《竜田風俗図》《武蔵野図》、 〈黒書院〉帳台の間障壁画 《名所風俗図》《秋草図》 《松柳白鷹図》
第4期	12月16日(月)～ 平成32年(2020)2月16日(日) ※12月29日～31日は休館 [60日間]	うつりゆく季節 ～ 老中の間の花鳥図 ～ 〈式台〉にある老中の間3室の障壁画を公開します。ここでは、老中が執務を行った部屋と考えられており、そこに描かれる障壁画は、一の間は春から夏、二の間は秋、三の間は冬というように、四季をテーマにした花鳥図です。筆者は、狩野探幽を指導したと言われる狩野興以とその周辺画家と考えられています。青々とした芦が生える水辺に雁が集う一の間、刈田の落穂を雁がついばむ二の間、雪が積もった柳に鷹がとまる三の間、それぞれの部屋の障壁画に表れた季節の風情を、お楽しみください。	〈式台〉老中一の間障壁画 《芦雁図》、老中二の間障壁画 《芦雁図》、老中三の間障壁画 《雪中柳鷹図》